

別々帳

大地のひろがりの中央を
乳白色の細長い巨大な袋が
這ひずりながら伸長して行きます
するするするするしてゐます
青ざめたやうな色でひろがる大地には
地割れが暗黒の線條を引いてゐます
枯木が集つて森をつくり
ところどころにうつすらと影を落してゐます
その梢は針のやうにしか見えません
巨大な袋は
森のあひだを縫ふやうにして
地割れの線條の上は
なかば身を浮かせて
自己の伸長を企ててゐるのですが
奇妙な形になりはじめました
水道の水が時たまやるやうに
間歇的な動きを示したと思つてゐると
途中が特別に太くふくらみはじめました
ああ 僕は都会の夕方の思ひ出にかへらなければならない
愛してゐた少女が僕の背後から
急に消失してしまつた瞬間の
僕のにがい心理に立ちかへらなければならない
静寂は保たれてゐます
夜明けにはまだ時間があります
例の袋はやたらな変貌を重ねてゐます
まるい先頭が空中高くのしあがり
形をととのへようとしてゐます
ひとつの森の側から伸びあがりはじめたのです
うつすらと
袋の向う側に
梢の針が
春の日をあびてゐるかのやうに
にぶく光つて見えてゐます
青ざめた大地を血ぬるもの
あの少女は僕をうしろから刺したのだ
急下降 急下降
袋がなえはじめたではありませんか
消えて行くではありませんか

2

黒い山がかこんでゐます
夜の入り江は細い白い線でかこまれてゐます
入り江の中央のあたりに
一本の発光してゐる材木のやうなものが現はれました
水面と鋭角をつくつて 白い姿をうつし
その先端に
別の一本が現はれて空中に伸びて連なりました
三本目は逆方向に
似たやうな角度で さらに重なり
空中に伸びてゐます
つぎつぎに現はれては それらのものが 組み立てられて行きます
めざましい速度で 入り江のそのあたりがにぎやかになり
形態が楼閣であるとも言へません
ああ 僕の仮空の真実がここにあるではありませんか
お前が頬をよせてゐないのはどうしてなのか
お前のあたたかい頬はここになければなりません
水の中深くまで輝くやうに照らしてゐます
入り江の底には
まるい大きい石がいくつも沈んでゐます
向う側の山の下には細い道があるのですが
誰も通つてゐないやうです
山の裾の木が ひとときは 緑の葉を光らせてゐます
近くに無人の舟が浮いてゐました
任意の形態に組みあがつたものはは
相当の長い時間を
お前のやうにそのままてゐてくれます
お前のやうに崩れはじめました
一本が高い所から垂直に落ちて
入り江に小さい白い波をたてて水中に入り
しばらく白くまはりを照して消えて行きます